



R.Kaji

THE NAKAYAMA GRAND JUMP

第27回 農林水産省賞典

中山グランドジャンプ (J・GI)

1着 賞 70,000,000円 2着 28,000,000円 3着 18,000,000円 4着 11,000,000円 5着 7,000,000円
付加賞 427,000円 122,000円 61,000円



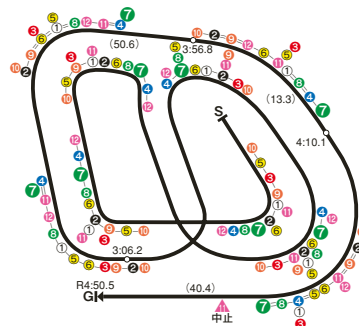
レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 4歳62^{kg}、5歳以上63^{kg}、牝馬2^{kg}減

2025.4.19 中山 晴・良 芝4260^m (国産)

着順	馬番	馬名	性別	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	平均 1ハロン	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	
1	⑦	エコロデュエル	牡	63	草野太郎	R4:50.5	2-1-1-1	13.6	476(-2)	6.2⑤	岩戸孝樹(美浦)	
2	①	ネビーイム	牡	7	63	小坂忠士	8	6-6-4-3	13.7	536(+2)	16.2⑥	佐々木昌三(栗東)
3	⑧	インプレス	牡	6	63	小牧加矢太	2½	5-5-3-2	13.7	524(-2)	5.8④	佐々木昌三(栗東)
4	④	ジュネバロシティ	牡	7	63	森一馬	7	1-2-2-3	13.8	470(+2)	3.8②	武英智(栗東)
5	③	マイネルグロン	牡	7	63	石神深一	4	9-8-5-3	13.8	516(-6)	3.4①	青木孝文(美浦)
6	⑥	スマイルスルー	牡	5	63	高田潤	クビ	8-8-8-7	13.8	528(+4)	4.0③	斎藤崇史(栗東)
7	⑤	アランデル	騾	7	63	上野翔	3½	7-6-5-6	13.8	538(-4)	37.8⑦	大竹正博(美浦)
8	⑫	ビーターサイト	牡	5	63	伴啓太	10	4-4-9-8	13.9	476(-4)	263.2⑫	村田一誠(美浦)
9	⑨	ブラチナドリーム	牡	6	63	中村将之	2½	10-10-10-10	13.9	476(-4)	242.2⑪	菊川正達(美浦)
10	⑩	ザレストノーウェア	牡	7	63	五十嵐雄祐	8	12-11-12-12	14.0	472(-4)	187.4⑩	新開幸一(美浦)
11	②	ディエムタツマキ	牡	7	63	黒岩悠	大差	11-11-11-11	14.3	512(+4)	119.6⑨	武英智(栗東)
12	⑪	バーンパッション	牡	8	63	大江原圭		3-3-5-8	480(-10)	56.5⑧	天間昭一(美浦)	

単勝⑦620円(5^{kg}) 複勝⑦180円(4^{kg}) ①270円(6^{kg}) ⑧220円(5^{kg}) 枠連①-⑥1,760円(8^{kg})
馬連①-⑦2,360円(12^{kg}) ワイド①-⑦670円(12^{kg}) ⑦-⑧610円(10^{kg}) ①-⑧1,030円(14^{kg})
馬単⑦-①4,300円(22^{kg}) 3連複①-⑦-⑧4,050円(18^{kg}) 3連単⑦-①-⑧23,960円(95^{kg})



上り1マイル: 1:44.3

上り: 800^m 600^m
53.7 - 40.4

アラカルト

- ・草野太郎騎手は中山グランドジャンプ初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算5勝目
- ・岩戸孝樹調教師は中山グランドジャンプ初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算8勝目
- ・キタサンブラック産駒はJRA重賞通算19勝目
- ・6歳馬の勝利は23年イロゴトシに続く通算5回目
- ・本年は4260^mで実施。勝ちタイム4:50.5は、同距離で実施された11年にマイネルネオスが記録した4:51.6を1秒1更新するコースレコードおよびレースレコード
- ・バーンパッションは10号障害(ハードル)着地時に転倒したため競走中止

エコロデュエル *Ecoro Duel*

牡 青鹿毛 2019.5.4生
北海道日高町 下河辺牧場生産
馬主・原村正紀氏 美浦・岩戸孝樹厩舎
馬名意味・冠名・決闘

キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA
		ウインドインハーヘアIRE
	シュガーハート 鹿毛 2005	サクラバクシンオー
		オトメゴコロ
クラリネットUSA Clarinet 鹿毛 2007	Giant's Causeway 栗毛 1997	Storm Cat
		Mariah's Storm
	Legs Lawlor 鹿毛 2002	Unbridled
		Evil Elaine

5代までのインブリード：Lyphard S5×S5

INTERVIEW

下河辺隆行専務(下河辺牧場)

積極的なレースがよかったと思います

中山競馬場で観戦しました。無事に完走できたことが何よりですが、レース前の岩戸調教師の宣言どおり、前走とは違って今回は思い切りのよい積極的なレースをしてくれた点がとてもよかったと思います。レース後、草野ジョッキーが喜んでいて姿も印象的でした。障害レースですなので、まずは怪我をせず、この調子で今後も無事に走ってくれることを願っています。

S.Suzuki



2番手に控えたジューンベロシティが、ワンサイドの戴冠劇を演じた。序盤はピーターサイトを先に遣り、2番手に控えたジューンベロシティが、身差をつけてゴールに飛び込んだ。4歳時(2023年)の春に障害入りした後、順調に出世の階段を駆け上がり、同年11月の京都ジャンプSで早くも重賞初制覇を果たした本馬だが、その後の6戦は入着止まり、と悔しい足踏みを重ねた。連敗脱出の転機となったのは前走の阪神スプリングジャンプ。動くに動けず、脚を余した格好で4着に終わったレースの翌週、岩戸孝樹調教師と草野騎手はみっちり話し合い、この馬の持ち味は持久力、との認識を改めて共有したという。思い切ったロングスパートに馬もよく応え、非凡なスタミナをアピール。これまで先着を許してきた面々を従え、障害界の新たな王位を継承した。

父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 中央20戦12勝(ジャパンC^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}2回、天皇賞(秋)^{G1}、大阪杯^{G1}、京都大賞典^{G2}、スプリングS^{G2})、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回、18年から供用〔代表産駒〕イクイノックス(ジャパンC^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}2回、宝塚記念^{G1}、ドバイシーマクラシック・首^{G1}、東京スポーツ杯2歳S^{G2}、日本ダービー^{G1}2着、皐月賞^{G1}2着)、ソールオリエンズ(皐月賞^{G1}、京成杯^{G2}、日本ダービー^{G1}2着、宝塚記念^{G1}2着、菊花賞^{G1}3着)、クロワデュノール(ホープフルS^{G1}、東京スポーツ杯2歳S^{G2}、皐月賞^{G1}2着)、ウィルソンテソーロ(JBCクラシック^{JnI}、白山大賞典^{JnIII}、マーキュリーC^{JnIII}、かきつばた記念^{JnIII}、チャンピオンズC^{G1}2着2回)、ガイアフォース(セントライト記念^{G2}、フェブラリーS^{G1}2着)、スキルヴィング(青葉賞^{G2})、クリスマスパレード(紫苑S^{G2})、ピコチャンブラック(スプリングS^{G2})、他に重賞勝ち馬多数

母クラリネットUSA

北米11戦4勝(フレイミングペイジS・加L)、13年輸入プラタナスロード(14 牝父ディーブインパクト)不出走ファゴット(15 牝父ディーブインパクト)中央3戦0勝ハーツシンフォニー(17 騊父ハーツクライ)中央18戦0勝、障害17戦2勝 ④ シャンブル(18 牝父ハーツクライ)中央28戦4勝(シャングリラス・杵崎特別)、地方4戦0勝

エコロデュエル 本馬(19 牝父キタサンブラック)中央10戦1勝、障害12戦4勝(中山グランドジャンプ^{J・G1}、京都ジャンプS^{J・G2}、中山大障害^{J・G1}2着、東京ハイジャンプ^{J・G2}2着、阪神スプリングジャンプ^{J・G2}2着、中山大障害^{J・G1}3着) 獲得総賞金224,330,000円

クラリティー(22 牝父サトノダイヤモンド)中央2戦0勝 ④

※16、21、23、24(不受胎)、20(前年種付せず)

祖母レッグスローラー Legs Lawlor

アメリカ産 愛1勝

クラリネットUSA(07 前出)

リサージェンス Resurgence(10 牝父Awesome Again)北米4勝

曾祖母イーヴィルエレイン Evil Elaine

アメリカ産 北米4勝(コロナドS・L、スクールホークS2着、ニューホープS2着)、**フェイヴァリットトリック** Favorite Trick(BCジュベナイル・米^{G1}、ホープフルS・米^{G1}、米年度代表馬、種牡馬)の母、**ムーンシャインメモリーズ** Moonshine Memories(シャンデリアS・米^{G1})の祖母

非凡な持久力で障害界の王位を獲得

昨年度の最優秀障害馬ニシノデイジが今年から種牡馬に転身。空位となった王座を争う春の決戦・中山グランドジャンプは、実績馬とJ・GI初挑戦の新星が一堂に会し、群雄割拠の様相を呈した。ファンの評価も割れたなか、2年前の最優秀障害馬マイネルグロンが1番人気、重賞4勝のジューンベロシティと4連勝中の新星スマイルスルーが2、3番人気に支持されたものの、勝利を飾ったのは5番人気のエコロデュエル。身上の持久力を前面に押し出したキタサンブラック産駒が、ワンサイドの戴冠劇を演じた。序盤はピーターサイトを先に遣り、2番手に控えたジューンベロシティが、身差をつけてゴールに飛び込んだ。4歳時(2023年)の春に障害入りした後、順調に出世の階段を駆け上がり、同年11月の京都ジャンプSで早くも重賞初制覇を果たした本馬だが、その後の6戦は入着止まり、と悔しい足踏みを重ねた。連敗脱出の転機となったのは前走の阪神スプリングジャンプ。動くに動けず、脚を余した格好で4着に終わったレースの翌週、岩戸孝樹調教師と草野騎手はみっちり話し合い、この馬の持ち味は持久力、との認識を改めて共有したという。思い切ったロングスパートに馬もよく応え、非凡なスタミナをアピール。これまで先着を許してきた面々を従え、障害界の新たな王位を継承した。